

心をつなぎ、みんなで分かる楽しい授業

～お互いに高め合う話し合い活動を通して～

豊岡市立港東小学校 校長 辻井 明未
主幹教諭 杉本 祐一

1. はじめに

平成 23 年度から完全実施となった学習指導要領では、「生きる力」の理念の継承とともに、基礎的な知識・技能の習得と活用、言語活動の充実が述べられている。PISA 調査や全国学力学習状況調査の結果から見える課題を踏まえ、「知識・技能の習得とともにそれらを活用して、思考力・判断力・表現力等を育成する」ことを目的として指導内容が示されている。

本校では、「心をつなぎ いのち輝く たくましい 港東っ子」という教育目標を掲げ、互いが良さを認め合い、誰もが安心して過ごせる環境づくり、人権が尊重される学校づくりを目指している。昨年度、「互いの良さを認め合い、高め合う児童の育成」をテーマに研修を深めた。自分の考えをペアやグループで説明したり聞き合ったりする話し合い活動を通して、人権が尊重される集団づくりについての研修を推進した。

言葉は「確かな学力」と「豊かな心」を育む。基礎的な知識や技能を活用する力の育成、自分の心を伝え、相手の心を動かす言葉の力の育成は、私たちの目指す子ども像の礎になるものであると考えている。そこで、“言葉”との新たな出会いを求めて「NIE 教育」への挑戦を始めた。

2. 5 年生の取り組み

(1) テーマ 「自然学校の思い出を新聞にまとめよう」
～ 問題解決的な活動を発展的に繰り返す ～

(2) 本活動のねらい

◎本活動を通してのねらい「追究力・コミュニケーション力・自己表現力」

○自然学校の思い出を文章にし、パソコンを使って新聞形式にまとめさせる。

その際、国語「新聞を読もう」で学習したことを使わせる。

○さまざまな活動の中で周囲の人々とのつながりを感じ、大切にさせる。

(3) 事前の活動

スキルタイムでは「新聞の見出しを考えよう」の取り組みを続けた。最初は見出しの言葉の字数は特に意識させないようにした。少しずつ元の見出しの字数を意識させ、「○○○○○○」といった形にし、最後には「○字で」とした。少しずつではあるが、本文から大切なキーワードを見つけ出し、短い文書でまとめる力がついてきたように思う。

※スキルタイム＝毎週火曜日の昼 10 分間に基礎基本の学習をする。

(4) 学習内容 (全 15 時間)

学習課程	主な内容	教人 材材	行教 事科	時 間
①課題設定 (つかむ)	○国語の学習「新聞を読もう」を思い出す ・見出し、リード文、本文等があったことを思い出させる ・実際に「自然学校」で体験したことを整理して、本文(記事)の下書きをさせる	国語教科書	国語	2
②課題にむかう (情報収集・調べる・新聞の作り方・情報の整理(思考))	○新聞記者(読売新聞社)の方の話を聞き、記事の作り方、見出し、リード文などの書き方を学ぶ ・指導の後に実際に自分で書き、新聞記者の方に記事(見出し・リード文含む)を見てもらう	新聞記者	総合	2
<p>「読売新聞社豊岡支局の松田聡記者の授業風景」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>				
③まとめる (まとめる・表現する・発表する等)	○「コラボノート」に記事を打ち込む ・「コラボノート」のひな型を使い、記事を新聞に仕上げる	ノコ ラト ボ	国語	10
④生かす (体験を今後の生活に生かす・人との関わり・次学習への発展)	○お世話になった新聞記者の方に出来上がった新聞を送る ・新聞だけでなく、お礼の手紙や自分たちが頑張ったこと、指導を受けたことを知らせる	手紙の書き方	学活	1

3. 各学年の取り組み

(1) 1年生

(ア)「新聞に親しもう」(生活)

- ・図書館へ行って新聞を読む。 ・気になる記事を見つけて友達に知らせる。

(イ)「話題の記事を読む」(国語)

- ・『子ども新聞』の中から、気になる記事を見つけて教師が読み聞かせる。
- ・子どもたちとその話題について話をする。

(ウ)「マイルール(自立のすすめ)という記事を基に自分の意見を持つ」(道徳)

- ・ 4コマ漫画のような形式を活用して、子どもたちと一緒に読んでどのような思いを持つかを話し合う。

(エ)「カタカナを見つけよう」(国語)

- ・ 新聞(毎日・朝日・読売・日経)にある“カタカナ”を見つける。

(オ) 成果

- ・ 新しい学習をする際の導入として取り入れることで、その後の活動に楽しく取り組めるようになった。

(2) 2年生

(ア)「新聞記事の読み聞かせ」(国語)

- ・ 季節や自然、動物、スポーツ、最近のニュースなどの記事を読み聞かせる。

(イ)「これなんだ?」(生活)

- ・ 新聞記事の写真を見せ、何の記事かを当てさせる。その後記事を読み聞かせる。

(ウ)「題名あて」(国語)

- ・ 読んで記事に沿った「題名(見出し)」を考える。

(エ)「虫くい俳句」(国語)

- ・ 俳句の投稿記事を利用して俳句作りに挑戦させる。五・七・五のうち、虫食い部分を作り、その部分に言葉を入れて俳句を完成させる。

(オ) 成果

- ・ 身の回りの出来事に興味関心を持つことができ、新聞をよく読むようになった。
- ・ 絵からどんなニュースかを想像し、新聞に興味を持つことができた。
- ・ 記事から大切な事柄や言葉を選び、記事に合った題名を付けることができた。また、新聞への興味関心が強くなり、学年の新聞コーナーだけではなく、学校内の他の新聞コーナーの記事もよく読むようになった。
- ・ 授業の中で俳句作りには取り組んでいるが、お題に合わせて作るのは難しい様子だった。

(3) 3年生

(ア)「見出しをクイズ」(国語)

- ・ ルビ付きの新聞を全員で読んで「見出し」を考える。見出しは一部分だけ隠しておき、当てはまる言葉を考えるようにする。

(イ)「川柳コーナーの俳句を想像する」(国語)

- ・ 『小学生新聞』に掲載されている“川柳”の一部を虫食いにして、当てはまる言葉を考える。

(ウ)「おもちゃコーナーの紹介」(社会)

- ・ 『神戸新聞』にある「おもちゃの紹介コーナー」を子どもたちに読み聞かせて、紹介する。写真だけ見せて、どんなおもちゃかを想像する。また、新聞の記事を紹介する。

(エ)「漢字見つけ」(国語)

- ・ 新聞記事の中から習った「漢字」を見つけ、どんな使い方ができるかを調べ、教室のみんなに知らせる。

(オ) 成果

- ・ 新聞やニュースなど社会の時事に興味を持つ児童が増えた。新聞コーナー(教室の前、児童玄関に設置)に立ち寄る児童が増えた。
- ・ 自主学習で自分が気になる新聞記事を視写する児童や感想を書く児童もいた。新聞を身近なものに感じた児童が多かった。

(4) 4年生

(ア)「新聞川柳」(国語)

- ・ 新聞の“言葉”(気になった言葉を5文字・7文字)をたくさん切り抜く。それを組み合わせて川柳を作る。

(イ)「これはどこでしょう?」(社会)

- ・ 記事になっている国や地名を地図で探す。記事について、知っていることを出し合って話し合う。

(ウ) 「題名当て」 (国語)

- ・ “写真” と “記事” を子どもたちに見せて、題名 (見出し) を当てる。

(エ) 「投稿記事を読んだ感想の交流 (『若者ボックス席』より)」 (国語)

- ・ 一つの「投稿記事」を印刷し、一人ずつ感想を書いて交流する。

(オ) 成果

- ・ 『子ども新聞』をよく読むようになった。川柳の材料となる言葉を探すうちに、自然と記事を読んでいる。
- ・ ニュースに関心を持つようになったり、地図の見方が身に付いたりした。
- ・ 長文のキーワードの見つけ方、引きつけるような題名の付け方の学習につながった。
- ・ 投稿記事を読み、人それぞれの考え方の違いを感じたり、共感したりしながら、物の見方・考え方について学ぶことができた。

(5) 6年生

(ア) 「見出しを考えよう」 (国語)

- ・ 新聞記事を読んで、読み手を引きつける見出しを考える。

(イ) 「天声人語を使って」 (国語)

- ・ 『朝日新聞』の「天声人語」を視写し、記事を読んだ感想を書き、伝え合う。

(ウ) 「戦争に関する記事を読もう」 (社会)

- ・ 戦争や平和 (テーマ) に関する記事を見つけて読む。

(エ) 日本国憲法に関する記事を読もう (社会)

- ・ 『新聞 (一般紙)』や『子ども新聞』の中から “日本国憲法” や “国の政治” に関する記事 (テーマ) を見つけ、記事の大まかな内容、意見・感想、記事と政治や憲法との関連をワークシートにまとめる (記事もワークシートに貼る)。完成したワークシートを友達と交換してコメントをもらう。

(オ) 成果

- ・ 文章の中から要点を見つけ出し、見出しを考えられるようになった。
- ・ 新聞を身近なものに感じ、興味を持って新聞を読む児童が増えた。自主学習では地元に関する記事や戦争・平和に関する記事をスクラップして、感想や考えをまとめる児童もいた。

4. おわりに

「活字離れ」は本校の児童にも当てはまる。各教室前に「子ども新聞」を設置し、普段から読む環境を作ってきたが、全校には広がらなかった。教師の「新聞を読もう」という呼び掛けだけでは、なかなか児童の心には響いていかない。新聞を使った取り組みで、児童が新聞をより身近に感じ興味を持っていくことが分かった。興味を持って初めて自分から新聞に触れていく。本年度、全学年で試行錯誤しながら新聞学習に取り組んだ。教師が「新聞＝(扱いが)難しい」と感じているうちは、取り組み方もいまひとつだった。職員室での会話に「新聞」の話題が増え、夏休みには実践を交流した。少しずつ「新聞＝楽しい」に変わっていった。教師の思いが変われば児童の意識も変わる。今では、教師も子どもたちも「NIE」の時間をとても楽しみにしている。